

冷水機や加熱機器などを製造する西山工業(本社富士市天間177の2、小林公一社長、電話0545・71・1340)は、他の企業に勤める人材の副業を受け入れる取り組みを始めた。このほど「事業企画室」を立ち上げ、副業人材と同社社員がチームを組んで手薄だった商品企画や市場調査といった業務に取り組む。副業人材の専門的な知識や経験を活用し、今後の成長につなげる。



小林公一社長

(勝又佑記)

事業企画室は、東京都内のIT(情報技術)関連企業に勤務する副業人材が室長を務めている。同社の若手社員らも含め10人弱で構成。副業人材は当初室長1人のみだったが、インターネットを活用し市場調査を行うデジタルマーケティングの専門家や大手製造業O

オンラインプラットフォームの商品



専門的知識や経験を活用 商品企画や市場調査を強化

小林社長は「これまでで、ITに関するノウハウにも限界があった。副業人材を受け入れ、社内にも刺激を与えたい」と話している。

同社は1960年に設立した。70年代に冷蔵庫や冷水機のOEM(相手先ブランド)による生産を始めた。次第に商品の幅を広げ、自社ブランド商品も手掛けるようになったが、商品企画や市場調査、販売のノウハウに課題を抱えていたという。

今後の課題は、副業人材といった多様な人材と円滑にコミュニケーションを取ることだ。それぞれ仕事の進め方や専門用語などが異なる中で、いかに意思疎通できるかが鍵になる。

「副業人材」の受け入れ開始

明日を拓く経営

東海で頑張る中小企業

冷水機、加熱機器など製造の 西山工業



副業人材との事業企画のミーティング

Bらを対象に副業人材を募り、今年1月にはもう1人加わった。今後も副業人材を増やす予定だ。

副業人材には月4回程度のミーティングに参加してもらう。対面に加え、オンラインでの参加を想定し、都市部の人材が参加しやすいようにする。

同室は当面、冷水機といった既存商品の営業戦略の立案や市場調査、広報業務、販促などを担当する。2022年春までには新規事業立ち上げに関する計画を策定する。